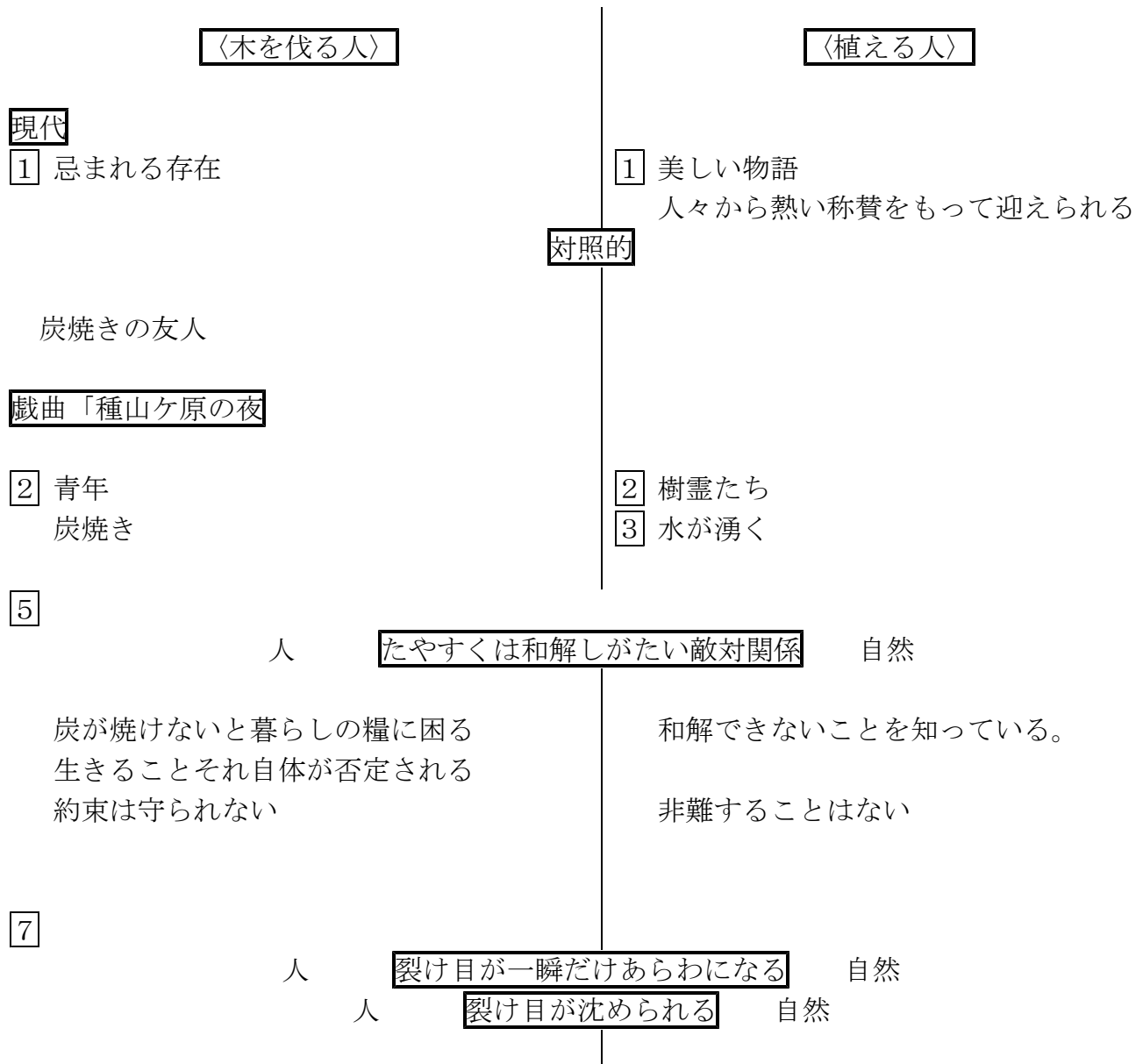


繩文時代・近代・現代

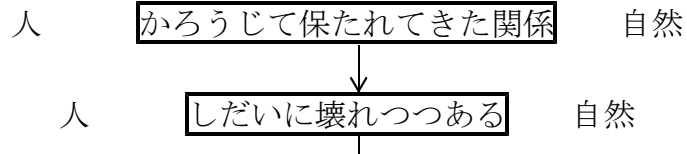
※「オリジナルノート」を作することを心がける。



人と自然は互いに共存することができないものであるということは明らかであるが、それはちょっとした時に認識されるが、自然の寛容さにより普段は意識しない状態になっている。

人は森の一部を殺しながら生きるため、人と森には和解しがたい裂け目が横たわっているが、どこかで折り合いを付けて共存している。

8 大正時代 (近代)

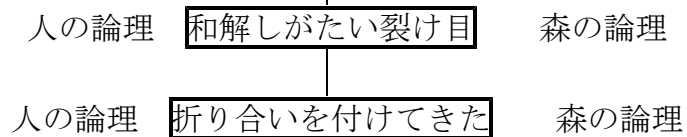


9 人の論理

人は一本の木も伐らずに生きてゆくことなど、できはしない。人は森を殺す、その一部を殺し、奪い、侵すことによって生活の糧を得る、そうして人としての生存を維持してゆくことができる。

森の論理

人が木を一本も伐らない、そうすれば、山はいつまでもこんもりと茂り、水も湧き続ける。



人は「自然の中の異物」